

2023年産 あきさかり栽培のしおり

香川県農業協同組合綾坂地区営農センター
香川県中讃農業改良普及センター（監修）

生育特性に合わせた栽培管理を行い、高位安定化生産に取り組み、安全で安心な売れる米を作しましょう！

病害虫の発生状況については最新の香川県病害虫防除所のホームページをご覧ください。



○ 環境への配慮

- ① 稲わら、麦わら等は焼かずすき込み、堆きゅう肥等の施用により土づくりに努めましょう。
- ② 農薬散布の際は、周辺環境に被害を及ぼすことがないように飛散防止対策を講じましょう。

○ 品質・食味の向上

- ① 近年、平均気温が上昇していますので、播種、田植時期は生育管理の目安に準じて行いましょう。
- ② 地力に応じた施肥に努め、特に穂肥は草姿、葉色、品種特性に合わせた適期、適量の施肥を行いましょう。
- ③ 生育期間を通じて間断灌水を行い、適正な水管理に努めましょう。
- ④ 必須防除の徹底と病害虫の発生状況に応じて確認防除を実施しましょう。
- ⑤ 収穫前には異品種の混入を回避するため、コンバイン、乾燥機等の清掃を徹底しましょう。
- ⑥ 品質・食味を落とさないよう初黄変率85%程度の時に収穫し、収穫後3時間以内に乾燥作業を行いましょう。

○ JA香川米への取り組み

消費者から信頼され、売れる米づくりのため、下記の要件を満たしたJA香川米の生産に取り組みましょう。

- ① 銘柄が確認された種子（毎年、種子更新100%）により生産・出荷されたお米
- ② 栽培基準が守られている事が栽培履歴書により確認されたお米（収穫15日前までに各支店、ふれあいセンターへ栽培履歴書を提出して下さい。）
- ③ JA香川県で農産物検査を受けたお米

「あきさかり」の特徴と栽培上の留意点

- ① 短稈で耐倒伏性は強い。
- ② 高温登熟条件で白未熟粒が発生しやすい。
- ③ 収量性は高く、極良食味。
- ④ いもち病、紋枯病にやや弱い。

※ 適正な肥培管理、防除が必要です!!

1. 生育・管理の目安

生育相	活着時期	茎が増える時期	茎の増加を抑える時期	穂ができる時期	穂が大きくなる時期	穂に実が入る時期																
作業の目安	基準	田植日	間断灌水開始 (田植後2週間)	中干し開始 (亀裂幅約1cmまで)	間断灌水開始 (出穂25日前)	穂肥施用 (出穂18日前)	出穂期	収穫期														
	管理の目安	6月5日	6月19日	7月3日	7月18日	7月23日	8月9日	9月14日～9月18日														
		6月10日	6月24日	7月5日	7月19日	7月27日	8月13日	9月17日～9月19日														
	6月15日	6月29日	7月10日	7月22日	7月30日	8月16日	9月19日～9月23日															
水管理	深水 7cm	浅水 3cm	間断灌水	中干し	間断灌水	灌水	間断灌水	間断灌水														
栽培管理のポイント	土壌改良資材	基肥	箱処理剤施用	田植	初期除草剤散布	田(ガス抜き)	間断灌水開始	中期除草剤散布	中干し	病害虫防除	間断灌水開始	紋枯病防除	穂肥	出穂期防除	畦畔雑草刈取り	出穂前後水管理	カメムシ防除	間断灌水開始	落水	収穫	乾燥	初摺・調製
	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除	必須防除

2. 施肥基準

1) 基肥+穂肥の施肥基準

肥料名	全量	基肥	穂肥	成分量
コシツタツチ	75	40	35	7.5-7.5-7.5

2) 基肥一発の施肥基準

肥料名	全量	基肥	成分量
あきさかり一発	40	40	7.2-4-5.6
Jコート48号	45	45	7.2-7.2-7.2

※手振りの場合は、基肥を1割増肥する。

3) 土壌改良資材

資材名	全量(基肥)
ユーキ鉄ケイカル	100
苦土一番	40
けい酸加里	30~40

3. 雑草防除基準

区分	使用時期(推奨)	対象雑草名	除草剤名	使用基準(登録内容)		使用月日	注意事項
				10a当り使用量	使用回数		
初期除草剤	移植直後～7日	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ミズガヤツリ	カチボシシジャンボ	30g×10個(300g)	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1回	①散布後3～4日は水深3～5cmを保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。 ②葉や浮草が発生している水田では、拡散効果が低下し、葉害や効果不良の恐れがあるので使用しない。
	移植直後～9日	同上	ジェイソウルフロアブル	500ml	移植時～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1回	①移植時処理は、田植機に専用散布機を装着した場合に限る。 ②落水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ③葉類が密着した後は効果が劣るので、葉類の発生前～発生開始時に散布する。
	移植時又は移植直後～9日	同上	キクトモ1キロ粒剤	1kg	移植時又は移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1回	①初期除草剤散布後、ノビエ等が発生した場合に使用する。 ②散布後3～4日は灌水状態を保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。 ③クリンチャー(バスマE液剤)とあわせて3回以内の使用とする。
中期除草剤	移植後7日～ノビエ3葉期まで	ノビエ キシウスズメノヒエ アザガヤ	クリンチャー1キロ粒剤	1kg	移植後7日～ノビエ4葉期 ただし、収穫30日前まで	2回以内	①初期除草剤散布後、ノビエ等が発生した場合に使用する。 ②散布後3～4日は灌水状態を保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。 ③クリンチャー(バスマE液剤)とあわせて3回以内の使用とする。
	移植後14日～ノビエ3.5葉期まで	マツバイ ホタルイ クログワイ ミスガヤツリ ウリカワ	セカンドショットSジャンボMX	25g×20個(500g)	移植後14日～ノビエ3.5葉期 ただし、収穫45日前まで	1回	①灌水状態で10a/20個を均一に投げ込む。 ②散布後灌水状態を7日間保ち、かけ流しをしない。 ③葉や浮草等残葉は拡散を妨げ、効果不足の原因となります。
	移植後20日～ノビエ4葉期まで(落水後処理)	水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ オモダカ キシウスズメノヒエ	クリンチャーバスマE液剤	1000ml	移植後15日～ノビエ5葉期 ただし、収穫50日前まで	2回以内	①水70～100ℓに溶かして使用する。 ②落水してから散布し、その後3日間は落水をしない。 ③クリンチャー1キロ粒剤とあわせて3回以内の使用とする。 ④バスマE液剤とあわせて2回以内の使用とする。
除草剤	移植後20日～30日(落水後処理)	水田一年生雑草(イネ科除く) マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ オモダカ	バサグラン粒剤	3～4kg	移植後15～55日 ただし、収穫60日前まで	1回	①落水又はごく浅く落水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ②散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのまゝの状態を保ち、入水、落水、かけ流しをしない。 ③クリンチャー(バスマE液剤)とあわせて2回以内の使用とする。

4. 病害虫防除基準

1) 必須防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)		回数	注意事項	使用月日
			希釈倍数	使用時期			
浸種前	いもち病 ぬめり病 ぬめり病 ぬめり病 ぬめり病	テクリドCフロアブル	200倍	浸種前	1回	①登熟期と同量～2倍量の薬液に24時間浸漬する。 ②浸漬後は種子を水洗いせずに浸種する。 ③浸漬後の薬液は排水などに流さない。	
			1000倍	播種前	1回		

育苗期の防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)		回数	注意事項	使用月日
			1箱当り使用量	使用時期			
苗立	ビンシム菌 フザリウム菌	タチカレエースM液剤	500～1000倍	希釈液を500ml噴注	1回	①播種後10日以内で散布する。 ②散布後1週間は落水やかけ流しをしない。 ③散布後10日以内で散布する。 ④タチカレエースM液剤は、必ず使用開始後3日以上あける。	
			400～600倍	希釈液を500ml噴注	2回以内		

育苗箱防除

防除時期	使用地域	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)		回数	注意事項	使用月日
				1箱当り使用量	使用時期			
田植え前	中山間～平地	いもち病、紋枯病 ウンカ類、カメムシ類 フザリウム菌	ビルダーフエルテラチエスGT粒剤	5g	緑化期～移植当日	1回	①老化苗、軟弱徒長苗、葉害が認められているときや播種後1週間以内で使用する。 ②葉害に付着した薬剤は、払い落とす。 ③移植後は必ず使用開始後3日以上あける。	
				5g	移植時～移植当日			

※「水稲育苗のしおり」を参考に施用する。

本田防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準(登録内容)		回数	注意事項	品名及び使用月日	
			10a当り使用量	使用時期				
防除一回目	出穂前	いもち病、紋枯病 ウンカ類、カメムシ類 フザリウム菌	ゴウケツモンスター粒剤	3kg	収穫45日前まで	1回	①3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。 ②いもち病に散布し、落水後は落水をしない。	
				1000倍	60～200ℓ			
防除二回目	出穂後	カメムシ類 ウンカ類 フザリウム菌	スタークル粒剤水溶液	3kg	収穫7日前まで	3回以内	①粒剤は3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。 ②水溶液は、ていどに散布し、落水後は落水をしない。 ③ゴウケツモンスター粒剤を使用した場合は、粒剤・水溶液両方とも2回以内の使用回数とする。 ④登熟期の発生を妨げるため、必須防除とする。	
				2000倍	60～150ℓ			
				250g	250ℓ			

※出穂前にダブルカットバリダフロアブルとスタークル顆粒水溶液の混用散布を行う。

2) 確認防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準		回数	注意事項	使用月日
			10a当り使用量	使用時期			
移植後	スクミンゴイ(ジャンボトナシ)	スクミンゴイ	1～4kg	収穫45日前まで	2回以内	①移植後、スクミンゴイを確認したら直ちに散布する。 ②水田周辺や排水になる場所は被害が多いので、所定の範囲内で多めに散布する。	
			1～2kg	収穫45日前まで			
穂ばらみ～穂期	紋枯病	モンガリット粒剤	3～4kg	収穫45日前まで	2回以内	①3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	
			3～4kg	収穫30日前まで			
7月中旬～8月上旬	ウンカ類 フザリウム菌 イネツムシ コブノメイガ	バダン粒剤4	3～4kg	収穫30日前まで	6回以内	①3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	
			250g	出穂5日前まで			
いもち病 初発時	いもち病	コラトフ豆つぶ ブラシフロアブル	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	①コラトフ豆つぶは、3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	
			1000倍	収穫7日前まで			

※こらトフ豆つぶの液剤処理はブラシフロアブル1000倍にて行う。 ※農薬・除草剤は2022年10月1日現在の登録状況による 2022年10月作成